

全国協議会 ニュース

2015年8月1日発行 第278号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：野村正満 題字：仲田順和（会長）
http://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

患者負担金値上げ問題 赤字軽減が逆に拡大も

日本骨髓バンクは今年10月から患者負担金を引き上げる方針を明らかにしています。私たち全国協議会は、この値上げを白紙に戻すように6月24日（水）に要望書を提出しました。財団から7月28日付で文書回答がありましたが、内容は「『財政安定化ワーキンググループ』で鋭意検討中」となっています。検討材料にしてもらうためにも、「負担金の値上げはかえって赤字を拡大しかねない」ことを指摘しておきます。（理事長・野村正満）

7月15日付の財団「MONTHLY JMDP」では、患者負担金値上げについては一切報じていません。あるのは、評議員会の報告として「平成26年度決算は寄付金収入の低迷と移植件数の減少により経常収益が予算比1億円の減収」となり「収入の増加と経費削減により7000万円程度の資金を捻出」するとしています。

現在の財団の大きな収入源は医療保険収入です。移植1件につき約45万円が骨髓バンクに入る構造で、全収入の4割弱を占めます。昨年度は数百万円減で、1億円の赤字に占める割合はわずかなものです。しかし「移植件数増加による増収策」を掲げながら、患者負担金を値上げすることは実に非論理的といわざるを得ません。それには「さい帯血移植」との関連を考えねばなりません。最近の骨髓バンクを介した移植数の推移を別表に掲げます。

さい帯血は無償で提供されます。

別表：骨髓バンクを介した最近の年度別移植件数

	11年度	12年度	13年度	14年度
移植件数	1,272	1,338	1,343	1,331
対前年度比	+80	+66	+5	-12

(年度は西暦)

白血病フリーダイヤル
0120-81-5929

毎週土曜日10時から16時まで、医療費の不安などの相談をお受けします。第2・4土曜日には専門医に直接相談できます。

ソニー生命がサポートしています。

「骨髓か、さい帯血か」の移植細胞選択の際に、患者家族や主治医の判断材料として患者負担金の存在がある、という現実的な問題です。経済的に余裕がない場合、骨髓移植ではなくてさい帯血移植にしよう、という状況が増えるであろうことは、患者家族と接していると容易に想像できます。

財団の回答書の中にある「財政安定化ワーキンググループ」とは、7月14日（火）に初会合を開いた財団の臨時組織で、「患者負担金の適正水準」などを審議しています。

47都道府県1万222km 走破 日本縦断キャラバン 無事故で

全国協議会の設立25周年記念事業である「日本縦断キャラバン」（共催：日本赤十字社）が、6月28日（日）に北海道庁旧庁舎前で完走式を終えました。4月24日（金）に沖縄県庁で出発式を行い、沖縄～鹿児島と青森～北海道をフェリーでつないだほかは陸路と橋（福岡～山口、広島～愛媛、香川～岡山）でたどり着きました。47都道府県を1万222kmにわたり無事故で走破できたのは、未加盟団体を含む全国のボランティアの皆さんのご協力の賜物です。 =2～4面に関連記事

道庁赤レンガ庁舎で完走式

「日本縦断キャラバン完走式」は、

仲田順和会長・野村正満理事長、来賓に日野学日本赤十字社血液事業本部総括副本部長、高橋はるみ知事の代理・長野幹広北海道医務業務担当局長の出席のもと、道庁赤レンガ庁舎前庭で行われました。

全道各地から集まったボランティア、北海道赤十字血液センターの皆さま、献血キャラクターの「けんけつちゃん」、道の担当者と北海道農産物の食品衛生キャラクター「ハサップ君」、保健福祉局のマスコット「うっさん」たちも駆けつけ、大きな拍手に包まれる中、今後一層のドナー確保のためのお願いを、北海道ブロックの内山景一朗理事が読み上げました。これまでも、そしてこれからもたくさんの方たちの協力をいただきながら、一人でも多くの骨髓バンクのドナーを増やしていきたいと、思いを新たにしました完走式でした。（北海道協会・神戸）



骨髓バンクの最新情報をお知らせする

骨髓バンク NOW

《財団マンスリー JMDP(7月15日発行)より抜粋》

■日本骨髓バンクの現状(2015年6月末現在)

	5月	6月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,424	2,327	452,845	641,926
患者登録者数	240	308	2,880	45,318
移植例数	93	113	—	18,366

■6月の区別ドナー登録者数

献血ルーム／563人、献血併行型集団登録会／1,686人、集団登録会／44人、その他／34人

注) 数値は速報値のため訂正されることがあります。

■6月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 2,724人／20代 70,853人／30代 144,398人／40代 185,001人／50代 49,869人

■6月の20歳未満の登録者433人

■6月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：108件

19 道県訪問(千葉 6.2 →北海道 6.28)

千葉 6月2日、千葉の会ボランティア10人で、まず千葉県内で初めてドナー助成制度を導入した習志野市役所を訪問しました。次に千葉県赤十字血液センターを訪問し、浅井所長、大谷薬務課長らと、法律の施行に伴う日赤の役割の推進を確認しました。最後に千葉県子ども病院を訪問、伊達病院長・荒木薬務課班長らと懇談しました。ロビーでは千葉県のゆるキャラ、チーバくんがお子さんに大人気でした。(千葉骨髓バンク推進連絡会・梅田正造)



茨城 キャラバン3回の経験を買われてか、野村理事長よりの誘いを受けて茨城と栃木を同行することになりました。日ごろ運転してないので緊張感いっぱいでも余裕をもって朝6時スタートし、「潮来道の駅」で合流し鹿嶋スタジアムで記念撮影後、鉾田市役所に向かいました。玄関で大歓迎とたくさんの赤丸募金をいただき感謝! 茨城県庁でアピール文の読み上げと「いばキラTV」のスタジオ撮影、その後は新装の茨城県赤十字血液センターを訪問しました。(円東克典)



栃木 6月4日、朝8時に出発し、栃木県赤十字血液センターへ。気さくな所長と懇談後、アピール



文を読み上げて協力を要請しました。その後、午後1時に栃木県庁庁舎前で栃木県薬務課森川課長にアピール文を読み上げました。そして時間に余裕があるので日光街道、中禅寺湖経由にて群馬へ向かいました。(円東克典)

群馬 6月5日、群馬県庁前広場へ、キャラバンカーが静かに到着し、県の薬務課職員の皆さん・ボランティアメンバー・マスコミ関係者の方々が大勢出迎えられました。県へのアピール文読み上げ、「真摯に受け止め、希望する患者が骨髓移植を受けられるよう県としても頑張りたい」と、薬務課須野原課長から前向きで力強い言葉をいただきました。その後、県内唯一ドナー助成制度を導入した前橋市役所へ、そして群馬県血液センターを訪問しました。(群馬県骨髓バンク推進連絡協議会・根岸和雄)



埼玉 埼玉連絡会は、予備日を含め3日間運行しました。初日の加須市役所では、大橋良一市長をはじめ市職員、青年会議所、市内在住のドナー経験者の皆さんから盛大な歓迎を受けました。また、熊谷駅・大宮ウエストの献血ルーム、本庄市内の献血会場では日赤スタッフの皆さんから、イオンモール与野や秩父市保健センターでは担当者の皆さんから、心温まる歓迎とPR活動への協力をいただきました。その後、無事に山梨へ引き継ぎをしました。(埼玉連絡会・笠原慶一)



岐阜 6月9日に塩尻駅前で長野県から引き継ぎを受け一路、岐阜へ。途中の駒ヶ根サービスエリアでは声を掛けてくださる方があり、キャラバンカーの「いるだけ効果」拔群でした。ここで時間をとりすぎたため、急いで中央道を南下し、岐阜県で初めて今年からドナー助成制度を創設した瑞浪市役所を訪問し、多くの瑞浪桔梗LCメンバーや市役所職員の皆様から歓迎をいただきました。翌日は県庁、血液センターへの訪問のほか、岐阜市役所、大垣市役所や、大学の献血会場、応援企業など3カ所へ、11日は中学校やスーパーでの献血会場のほか、支援企業8社を訪問するなど、岐阜県内では19カ所への訪問をまさに分刻みで予定どおり福井へ繋ぐことができました。(田中重勝)



石川 6月13日、午前中会員の 大谷内さん(移植16年目)が金沢大学附属病院など所縁の施設を訪問。午後石川県知事、血液センター所長宛てアピール文伝達後登録会開催。会員の福島先生指導の金沢医療技術専門学校生ボランティアの協力で若者中心に16人の登録があり、当日中にテレビ金沢のニュースで放映され、翌朝には北國新聞に取り上げられました。(いしかわ骨髓バンク推進・はとの会代表・樫見昭夫)



富山 今回の企画を知って脳裏に浮かんだのは、16年前の全国キャラバン。県内35の全市町村役場を表敬訪問するという「怪挙」を成し遂げた実績があるので、平成大合併後の15市町村を回るのは楽勝…と思いきや、車が使えるのは6月14日(日)のみと知り予定変更。前回は「動」とすれば、今回は「静」。富山市内の大

型商業施設の正面玄関前にキャラバンカーを展示し、ドナー登録会を開催しました。次回は是非、平日に！（富山県骨髓バンクを広める会・品川保弘）



新潟

6月15日、まずは今年度からドナー助成制度を導入した見附市へ感謝状を贈呈し、職員の皆さまに見送られ県庁へ。福祉保健部・山田富美子副部長へアピール文をお渡しして、今回のメインとなる血液センターへ向かいました。元患者さんで移植を受けて元気に活躍している縁筆書家 soyamax さんの書道パフォーマンスを行いました。出会った方のご縁を大切にしていることから「縁」という文字を書いていただきました。（NPO 法人骨髓バンク命のアサガオにいがた・高野由美子）



福島

6月16・17日、キャラバンの福島県内訪問先は病院2カ所、保健所2カ所、県庁、血液センター、そして大学（ドナー登録会場）1カ所でした。いずれも温かい対応をしていただきました。県庁では約30人の職員の方々が出迎えてくださり、保健福祉部長さんからは「ドナーの提供環境の改善に努めたい」とのコメントをいただきました。また、血液センターではセレモニーの後、所長室でドナー登録全般について意見交換できました。福島大学の登録会では31人の学生さんに登録いただき有意義なキャラバンとなりました。（陽田秀夫）



山形

6月18日、置賜保健所をスタート地点として、米沢市役所前でチラシを配布し、骨髓バンク啓発活動に積極的に協力している高畠町を表敬訪問、その後、山形大学医学部付属病院で入院している子どもたちに絵本やおもちゃをプレゼントして、とても喜ばれました。日赤献血ルーム SAKURAMBO では、渡辺所長へアピール文を読み上げ、ドナー数が全国6位との話も伺いました。（骨髓バンクを支援するやまがたの会）



宮城

6月19日午前中、日赤と県庁と市役所の3カ所で、行事が開催されました。まず当会の吉永理事長挨拶、各箇所責任者のご挨拶、そしてドナー経験者でもある仙台支部代表の佐藤幸子さんのアピール文読み上げが続き、今回のキャラバンの趣旨が力強く表明されました。当会のボランティアをはじめ各事業所の関係者が数多く参加され、特に市役所玄関前では参加者が50人以上となりました。報道機関も取材に積極的で仙台放送ではセレモニーの報道に加えて最近のドナー登録者数の変遷をグラフ表示で解説するなど、当夜のテレビニュースで2回も放映されました。河北新報には、「ドナーへの助成、県・市に導入要請」という見出しで、キャラバンカーと参加者の写真が掲載され、行事内容も詳しく報道されました。（宮城骨髓バンク協議会・小島宗三）



秋田

6月21日に学生ボランティアやブラッドマンが待ち受ける大曲イオンでの献血会場から引き継いだキャラバンカーは、翌日午前中から、秋田県庁と秋田県赤十字血液センターを訪問しました。議会中に

もかかわらず対応してくださった県庁では、スグッチや森っちも激励の千羽鶴を用意して待っていてくれました。血液センターでは長年の良好な協力関係に感謝を伝え、今後もよろしくと懇談会をもちました。（菅早苗）



青森

6月23日、キャラバンカーが静かに青森県庁正面に滑り込み、ボランティアの見守るなか温かさや真摯な思いが込められたアピール文を根井代表が読み上げました。残念ながら県にアピール文を受け取ってもらえませんでした。今後、ドナー経験者の息子と共に、骨髓バンクに関わることができたことに感謝を忘れず、私たちは静かに発信し続けます。（青森 ドナーの家族・田中昌子）



小樽

6月27日、旭川よりキャラバンカーが入り、「マッサン」でお馴染みのニッカ工場や小樽駅前前で広報活動の後、小樽市保健所を訪問。北海道内の登録抹消増加問題に触れ、秋野所長から小樽商科大学の献血併行登録会の実施や、小樽市立病院で休日に行われる「プチ検診」とコラボしての登録会をご提案いただきました。

最終日を前に丁寧にキャラバンカーを洗車し、へこみ傷1つ付けず無事故で全国を縦断してきた重みを改めて感じました。（小樽骨髓バンク推進会・本間裕子）



トヨタ東京本社を表敬訪問

全国でたくさんの方々とふれあい、大きな役割を果たしたキャラバンカーは、7月1日に東京へと搬送されました。リレーで乗り継ぐキャラバンは誰でも運転しやすい車がなければ成立しない旅でした。そこでキャラバンに多大な支援をくださったトヨタ自動車株式会社に、感謝をお伝えたいと考えました。東京本社の社会貢献推進部の皆さまのご尽力により、2日(木)に表敬訪問は実現しました。

当日、ショールームに会場を設営



し、100人ほどの社員の方々に参加いただいで、賑やかな式となりました。

名残惜しく出発する際には、社会貢献推進部の皆さまが、車が走り出すまで手を振ってくださいました。ご寄付と共に温かいお心もいただきました。

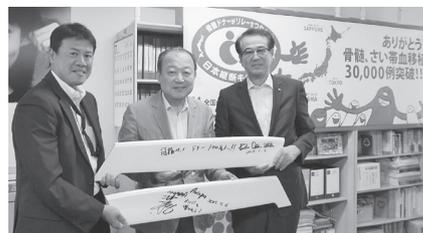


埼玉連絡会・杉本はるみさん画

キャラバン後の贈り物

キャラバンカーは、福岡でソフトバンクホークスの王貞治会長と、J2アビスパ福岡の井原正巳監督に、車体に

サインをいただきました。7月15日、事務局にトヨタレンタリース東京株式会社様がお越しになり、キャラバンの旅が終わって無事返却した車からサインのあるパーツ(サイドレールカバー)を外して、ご寄付くださいました。現在は赤丸募金と共に、事務局に大切に飾っています。



【御礼】日本縦断キャラバンカーに貼り付ける「赤丸募金」は425枚となり、計23万1541円が寄せられました。

● 25周年記念事業へのご寄付

株式会社みずほ銀行 500,000円 岐阜骨髄献血希望者を募る会 200,000円

「初の女子会」患者サロン 3回シリーズセルフネイル

6月28日(日)、全国協議会事務所では患者サロンが開催されました。美容師である協議会理事が講師となり、3回シリーズで自分でジェルネイルができるようになります。初めにヒジまでケアする念入りなハンドマッサージ。2人一組で練習しました。手のひらのツボも丁寧に押していきます。この日は指1本のネイルが完成しました。女子だけ9人の茶話会では、女性患者さんならではの悩みや経験談などで盛り上がりました。7月19日(日)にも開催、最終回を9月20日(日)に予定しています。この回だけでも大丈夫です! 参加お待ちしております。



高知黒潮ライオンズクラブ 民間初のドナー助成制度

高知黒潮ライオンズクラブがこのほど、「骨髄・末梢血幹細胞提供ドナー

助成基金」を創設しました。日本骨髄バンクによると、今年6月末現在で全国の106自治体にドナー助成制度が制定されていますが、民間団体では初めてです。

同ライオンズクラブは、この6月まで会長を務めていた依光聖一さん(高知県骨髄バンク推進協議会会長)が、血液疾患専門の内科医であったことから、2008年から骨髄バンク支援活動に力を入れ、これまでに会員が経営する22企業にドナー休暇制度を導入したり、ドナー登録会の開催などを進めたりしてきました。

同ライオンズクラブからの助成金は1人一律7万円で、高知県内のドナーに限りませんが、同県内の提供者数は年間平均7人とされ、これに充てる経費は60人の会員で賄うそうです。

若年層への普及啓発を検討 造血幹細胞事業広報作業部会

日本赤十字社(造血幹細胞提供支援機関)が行う、若年層に造血幹細胞事業(骨髄・さい帯血バンク)を普及啓発することを目的とした、20代の若手職員がメンバーとなる会が発足しました。その第1回作業部会が、7月9日(木)に開催されました。参加メンバーは日本赤十字社および日本骨髄バンク職員で構成された計7人です。また、オブザーバーとして当協議会・日本骨髄バンク・中部さい帯血バンク・兵庫さい帯血バンクから、1人ずつ参加しました。若年層へ普及啓発するための広報手段や、10月発行予定の広報誌創刊に向けて、タイトル・掲載内容・原稿の分担などについて、約3時間にわたり話し合いました。

心からのご寄付に感謝申し上げます ● 6月21日～7月20日(敬称略)

パワーバランスジャパン株式会社 現金 1,363円	匿名 現金 10,000円	匿名 現金 5,000円	サッポロテイセンボウル 現金 2,712円
飯塚東町商店街振興組合 現金 85,000円	●白血病者支援基金 小野塚 照直 現金 10,000円	匿名 現金 10,000円	ホームセンターコーナン市川原木店 現金 4,724円
飛田 行康 現金 10,000円	中山 雅雄 現金 2,000円	匿名 現金 2,000円	●佐藤さち子患者支援基金 公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 現金 9,967円
藤波 敬子 現金 10,000円	福原 卓也 現金 5,000円	匿名 現金 2,000円	匿名 現金 2,000円
鈴木 純子 現金 1,348円	株式会社サカタのタネ 現金 315,531円		
山村 詔一郎 現金 2,000円			
匿名 現金 10,000円			

活動資金の援助をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655 郵便振替口座 00150-4-15754

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会